

## 平成27年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	ゼミナールⅡA	授業コード	E002417
担当教員名	今西 衛	科目ナンバリングコード	E21201
配当学年	2	開講期	前期
必修・選択区分	必修	単位数	2
履修上の注意または履修条件	わからないことがあれば、その都度、講義時間内、あるいは研究室、メールなどで積極的に質問してください。小さな疑問から大きな関心につながることがあります。		
受講心得	ゼミでは、どんな小さなことでも構わないので、まちの課題を自分自身でみつけて、ゼミの仲間と一緒に課題を解決する政策を議論してください。学生皆さんの議論が非常に重要です。わからないことは、一人で悩まないでください。また、議論だけだと、主観的になったり、感情的になったりするのを、ものごとを客観的に捉え、論理的に説明できる(相手が納得できる)力を身につけてください。		
教科書	みなさんの関心にあわせて適宜、紹介します。		
参考文献及び指定図書	増田寛成「地方消滅-東京一極集中が招く人口急減」、中公新書、2014		
関連科目	プログラミング入門、プログラミング言語、データ解析A、データ解析B、情報システム論、システム分析論、データベース論、マーケティングリサーチ		

授業の目的	世の中で起きている社会現象を経験と勘のみでは、正しく理解できなかつたり、問題の解決にはつながらないことがあります。 このゼミでは、科学的なデータから客観的に社会現象をとらえることで、政策評価を行う力を養ってもらいます。
授業の概要	大分駅ビル開業前後で、大分都心部の消費者の動きがどのように変化したのかを検証すると同時に、ものごとを客観的に捉える力を身につけます。 授業計画は、みなさんの進捗状況や、関心ごとに合わせて変更することがあります。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
<b>第1週：オリエンテーション・大分駅ビル開業前の人の動き</b> 大分駅ビル開業1週間前の大分の状況を、開業後の状況を予想してください。	買物行動に関するアンケート
<b>第2週：大分駅ビル開業当日の人の動き</b> 大分駅ビル開業当日。週末を利用してどのような点に着目すべきかみてください。	レポート提出
<b>第3週：大分駅ビル開業による開業効果は？</b> まだ、1週間しか経過していませんが、大分駅ビル開業の効果を考えてください。	レポート提出
<b>第4週：大分駅ビル開業によるまちの課題は？</b> 逆に、大分駅ビルができたことによって、商店街はどのような課題を抱えるようになったのか、考えてください。	レポート提出
<b>第5週：ディスカッション</b> 1-4週の内容を踏まえ、いくつかの側面から、大分駅ビル開業に関する効果と課題を皆さんで議論します	レポート提出
<b>第6週：そのほかに効果や課題は？</b> ここで書いてしまうと、答えを言ってしまうので、皆さんで、そのほかにどのような効果や課題があるのか、考えてください。	レポート提出
<b>第7週：レポートの作成1</b>	

以上の議論を踏まえ、大分駅ビル開業を客観的に捉えたレポートを作成してもらいます。ここでは、レポート作成上の注意点などを説明します。		講義外でもレポートを作成してください。
<b>第8週：レポートの作成2</b> 先週のレポートを踏まえ、添削し、再度、レポートを作成してもらいます。		レポート提出
<b>第9週：スライドの作成</b> 完成したレポートに合わせてどのように、スライドを作成するのか説明します。		スライドの作成
<b>第10週：プレゼンテーション1</b> いくつかのグループに分かれて、発表してもらい、みなさんで評価しあいます。		スライドの作成
<b>第11週：プレゼンテーション2</b> 前回の評価に基づいて、プレゼンテーションを行います。		スライドの作成
<b>第12週：データの収集</b> 物事を客観的に捉えるためには、データを集める必要があります。必要であれば、まちに出てデータを集めてきます。		データの収集
<b>第13週：データの分析1</b> 集めてきたデータをどのように分析すべきかを簡単に説明します。		レポート提出
<b>第14週：データの分析2</b> 集めてきたデータをどのように分析すべきかを簡単に説明します。		レポート提出
<b>第15週：大分駅ビル以外のテーマを探そう</b> 大分駅ビル以外にも関心を持っている学生もいると思います。どんなことができるか議論します。		レポート提出
<b>第16週：</b> 定期試験なし		
授業の運営方法	(1)授業の形式	「演習等形式」
	(2)複数担当の場合の方式	「複数クラス方式」
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目	カテゴリー III：地域における課題解決に必要な知識を修得する科目	
備考	レポートをメールで提出してもらいます。	

<b>○単位を修得するために達成すべき到達目標</b>	
<b>【関心・意欲・態度】</b>	まちで起きている出来事を理解し、客観的に理解する力を身につけてもらいます。
<b>【知識・理解】</b>	まちの活性化でひつようなこと、マーケティングの知識を身につけてもらいます。
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b>	調査を行える技能、レポート、プレゼンテーションの表現力を身につけてもらいます。
<b>【思考・判断・創造】</b>	まちの活性化というプロでも難しい課題を、どのような切り口で考え、新しいアイデアを出せるかを身につけてもらいます。

<b>○成績評価基準(合計100点)</b>	合計欄	100点
------------------------	-----	------

到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)
<b>【関心・意欲・態度】</b> ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		20点	20点
<b>【知識・理解】</b> ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。		10点	10点
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b> ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		10点	10点
<b>【思考・判断・創造】</b> ※「考え抜く力」を含む。		10点	10点
<b>(「人間力」について)</b> ※以上の観点到、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。			

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	毎回の講義で課題が課されます。したがって、毎回出席していないと、課題も提出できませんので注意してください。 Sレベル: ゼミの議論を超えて、課題の解決のためそれを根拠づける説明がなされている。 Aレベル: ゼミの内容を踏襲し、課題の解決のためそれを根拠づける説明がなされている。 Bレベル: 課題の解決手段はあるが、それを根拠づける説明が少ない。 Cレベル: 課題解決の提案がない
発表・その他 (無形成果)	発表等も、講義の中で行います。出席していないと、発表もできませんので注意してください。 Sレベル: 客観的な説明に加え、聴衆を引き付ける魅力的な発表を行っている。 Aレベル: 客観的に論理的に発表している。 Bレベル: 客観的ではないが、相手に伝わるよう発表している。 Cレベル: 発表の内容が相手に伝わらない。